

經濟援助には日本語を用ふべし

あいかわじらう
愛甲次郎

余嘗てソニーの専務たりし頃、タイの工業省次官と晝食を共にせることあり。話題日本の歴史に及ぶに至り、彼の知識の乏しきに一驚す。明治維新の名すら知らざる彼に二時間に亙り日本の近代化につき講ず。彼感想を述べて曰く貴國にもチュラロンコン大帝ありきと。明治天皇の御事なり。工業省次官我國の近代化の過程の説明を受けて、タイ國に西洋の文物を取入れたるチュラロンコン大帝の治績を想起せるなり。

同じ頃タイの在京大使の異動ありき。前大使は余の親しき友人にして、電子技術を好み、ソニーの展示室を屢々訪問せり。されどその後継者は全く打って變り、當初より余に對し敵意をあらはにせり。就任を祝ひて表敬訪問せる余を前大使の如く執務室に隣接する奥の應接室に招じ入れず、玄關脇の控室にて引見せり。訪問の回数を重ねるに至り冷遇の理由を彼自ら説明す。當時余は日タイ經濟協力協會の理事長を兼ねたり。大使によればタイの官僚は留學先により派閥を構成すと。大使はドイツ留學組の由にて元日本留學組はその敵なり。日タイ經濟協力協會は元日本留學組の團體と姉妹關係にあれば、同じく敵視せざるべからずと。

ある時日タイ經濟協力協會は十數名のアジアの元日本留學生をバンコックに招き、經濟協力に關する日本語のシンポジウムを開催せり。参加者は自國にて相當の地位にある實務者にして流暢なる日本語を驅使して議論を展開せり。發言控へめなる日本人に比し自由闊達なる彼らの白熱の論戦は驚きなりき。余にとりて外國人による日本語の討論を聞くは初めての機會にして、日本語の國際語としての可能性に思ひ知りぬ。

タイに限らず元留學生の絆は極めて強く、彼等日本を愛すること日本人自身を遙かに超え、日本は將に彼らにとりその青春そのものなり。その思ひと團結に強さはかのタイ在京大使に敵意を抱かしむる底のものなり。

日本郵政社長門正貢氏興銀のバンコック支店長の頃余と親交ありき。西村頭取一日バンコック訪問を思ひ立ち、支店長に地元實業家との懇談の場を設定し、ために日タイ兩語の通譯を用意すべきを命ず。支店長思ひも寄らざる命令に通譯調達の目途立たず困惑の極にありしに、祕書の女性自ら通譯の役を果たすべきを申し出でぬ。支店長その祕書の日本語を能くするをそれまで全く知らざりし由。

その數年後ソニーのインドネシアの工場にて深刻なる労働爭議發生す。當時余既に現役を離れ顧問の地位にありしが、他にインドネシアの政府首脳と交渉すべき者なく、請はれて問題解決のため現地に赴く。紆余曲折の後問題は解決に至りたるも、その間驚くべき事實を知りぬ。工場の總務課長の職にありし現地人女性、嘗て筑波大學に留學、日本語を以て卒論を提出したる実績あるも日本人職員にしてそのことを知る者一人もなし。工場の公用語英語なれば、かの女性の學びたる日本語は一切何の役にも立たざりき。

經濟協力を実施する國は米國、ソ聯、英國、フランス、ドイツ、中國いづれも自國語を以て之を爲す。被援助國の擔當政府職員の援助國の言語を學ぶは通例なり。各國語の普及に取りてこれ重要な機縁なり。獨り我國は英語にて援助を行ふ。その結果巨額の經濟援助を行ひつつ將來被援助國との人材となるべき現地人を殘すことさらになし。金の切れ目が縁の切れ目にて日本の經濟協力は大きいなる慈善

事業にて終りを告げぬ。余嘗て經濟協力の役職を汚したる者として^{ちくち}忸怍たるものあり。

(令和元年八月二十七日受附)